秋田高校同窓会だより Vol.106

AKITA HIGH SCHOOL alumni association news

令和初の通常総会

秋山さんにナイチンゲール記章

●あの頃の思い出 「着装の自由化」エッセイ ◎鈴木 祥高氏

交差点 ◎平沼 義之氏

ズームアップ ◎内藤 慎平氏、高橋　希氏

今年も盛況

6月29日と30日に行われた恒例の秋高祭。下は、ホームカミングデーの一環で開設した同窓会コーナー。右横の写真は書道パフォーマンス＝広報委員会の森義弘委員（昭和48卒）撮影

秋田県立秋田高等学校　●学校創立　明治6年（1873年）9月1日

●卒業生総数／38,645人（旧制中学7,080人、新制高校31,565人）　●在籍生徒数／820人（男子447人、女子373人）

●同窓会員数／39,116人　●物故者／9,794人　●現会員数／29,088人　［令和元年10月1日現在］

●ホームページ　http://akitahs-doso.jp　●E-mail　aki-doso@cna.ne.jp

文武両道の頑張りに感銘

～令和初の総会に１８０人集う～

秋田高校同窓会の令和元年度通常総会は6月23日、秋田市の秋田ビューホテルに約１８０人が出席して開かれた。総会では平成30年度の会計決算報告、5常置委員会（企画・財政・名簿・広報・ホームページ）と3特別委員会（１５０周年記念誌編集・新先蹤録編纂・郷土創生）の事業報告を承認。令和元年度の事業計画と１９１５万円に上る一般会計予算が原案通り承認された。さらに、同窓会事務局から西仙北支部の解散、みずほ銀行からの年会費口座振替の中止等が報告された。

総会の冒頭、挨拶に立った銭谷眞美会長は、この春の同窓会入会式、翌日の卒業式に出席した感想を述べ、「卒業生たちは皆さん大変立派で、自分たちのやんちゃだった時代に比べると規律正しく整然と、また凛々しく式に臨んでいた。母校が発展している姿を見ることは同窓会として大変うれしく思う」と、母校にエールを送った。

続いて、安田浩幸校長が挨拶に立ち「本校の教育活動に対し、物心両面にわたって御支援をいただいていることに大変感謝している」と語り、社会に出てからも頑張ることのできる全人的な教育を目指しており、引き続きご理解とご支援を賜りたいと述べた。また、この春の卒業生については「現役で東大８人、東北大44人、国公立大医学部医学科に21人が合格し、国公立大学の合格者数は１７９人に上った。現在の一学年７クラス制になってからは最多で、全体の合格率も過去最高だった」と述べ、生徒たちが文武両道で頑張っていることを強調した。

続く記念講演では、りそな銀行常務執行役員の有明三樹子氏（昭和58卒）が「大事なことは何歳になっても一人一人が人生の夢を持つこと、筋肉を鍛え健康寿命を延ばすこと、そして資産寿命を延ばすこと」と語った。さらに、きんさんぎんさん（成田きん・蟹江ぎんの双子の姉妹）が流行語大賞を受賞して、１０３歳で初の海外旅行（台湾）に出かけた話を披露し、「元気に生きるにはお金が必要になる。つまりは、経済を活性化させることにもつながる」と強調した。

懇親会の乾杯は、参加最高齢（91歳）で旧制秋田中学を卒業した佐藤鉄男さん（昭和22卒）。「我々の入学した頃は5学年まであって上級生の〝気合掛け〟が怖かった」と往時の思い出を語った。中締めの挨拶では、若い世代の山田晃史さん（平成15卒）が「少額ながら私も学食復活に寄付をさせていただいた」と述べると、会場から大きな拍手が湧き〝一本締め〟で、令和初の懇親会はお開きとなった。

懇親会の中締めに臨む同窓生たち

天上天下 TENJO TENGE

今や物流の拠点、そして観光名所にもなった東京・豊洲市場。同じ豊洲ながら市場の喧噪とは別世界の閑静な場所に、木造平屋の瀟洒な建物がある。中には木製の家具が置かれ、大きな窓からは木々の緑と運河が見える。何とキッチンもあって心が安らぐ▼がん患者や家族、友人が気軽に立ち寄り、何でも相談できる施設にしよう。それも予約なし、無料で。そんなコンセプトで3年前に開設した認定ＮＰＯ法人「マギーズ東京」である。その中心にいる秋高ＯＧの秋山正子さん（69）にお話を伺った▼詳しくは本会報5ページをご覧願いたいが、一言で言うなら「私利私欲のない本物の人間の迫力」に圧倒された。どんな人でも、がんを宣告されたら絶望のどん底に突き落とされるだろう。そんな人たちに寄り添い、一緒に考えることで、がんと共に生きる道を探す。生易しいことではない▼30人の専門スタッフを抱える運営は寄付で賄っている。この際、同窓生の「本物の活動」を皆で応援しようじゃないか。連絡は同センター（☎０３・３５２０・９９１３）へ。支援の仕方も多様なので、どうか気軽に。

記念講演

「秋田おばこよ大志を抱け！しなやかに、したたかに」

りそな銀行常務執行役員　有明 三樹子（昭和58卒）

大手銀行の一角、りそな銀行は首都圏と関西圏を基盤とした銀行で、東北ではなじみが薄いが、とりわけ関西圏を中心に全国で有人店舗数８３７を誇っている。旧都市銀行の大和銀行に埼玉銀行・協和銀行が合併して出来上がった銀行グループで、現在、私はりそな銀行で女性初の常務執行役員をしている。

私が社会人になった年は、ＮＴＴが株式上場した年で、まさに株式ブーム到来の感があった。27歳にして年収１０００万円との声も聞かれる時代だった。大学時代（新潟大法学部）に会社法を専攻したこともあり、証券会社に進むことはかねてからの希望だった。当時４大証券会社の中で、唯一日興証券だけが、一般職から基幹職である総合職への門戸が開かれており、職権変更のルールも敷かれていた。なので、最短で念願の総合職へと移った。まさに順風満帆の人生と言えたが、ある時広いディーリングルームの中に風疹に罹った人がいて、そのウイルスに感染し悪いことに敗血症も発症してしまい、即刻入院という事態となった。

５カ月間の入院生活を経て職場復帰したものの、籍は人事部扱い、仕事はない。仕事がないってこんなに辛いとは思わなかった。しかし、この経験がなかったならば今の私はなかったということは確実に言える。翌年２月の人事異動で「企画」の仕事に就き、そこから私のブルドーザー人生が始まった。ここで学んだことは、期待されていない人には仕事は来ないということ。よく仕事がいっぱいあって大変だという人がいるが、それは凄く幸せなこと。周囲からそれだけ期待されていることの証し。しっかりとその期待に応えていくということは仕事人の基本姿勢（つとめ）と思っている。

秋高の学食に支援を

引き続き寄付金を募集

学食復活に向けてたくさんのご寄付、誠にありがとうございました。おかげさまで今年4月15日に無事、学食を復活させることができました。秋高同窓会では現在運営している学食をより安全に運営するための費用として、引き続き寄付金を募集しています。

【寄付の仕方】

(1) 学食復活プロジェクトWEBページより、必要項目を入力の上、クレジットカード決済、銀行口座振込にて募金する。
https://gakushoku.love

(2) 学食復活プロジェクトWEBページより、申込用紙を印刷・ご記入の上、FAXまたは郵送にて送付後、銀行口座振込にて募金する。
FAX：018-832-9588

みなさまの熱いご支援、お力添え、何卒よろしくお願いいたします。

【お問い合わせ先】

秋田高等学校同窓会・ 郷土創生特別委員会学食復活プロジェクト
TEL:018-832-9553
https://gakushoku.love

「150年史」に情報提供を（その2）

「同窓会だより」第１０５号でも呼び掛けましたが、引き続き「１５０年史」への情報提供をお願いします。

◆定期券（通学用定期券）

現在、１例だけ確認しています。昭和54年卒の成田茂雄さんからで、内容は「秋田～土崎間、昭和52年４月～10月、６か月券、１２、０００円」。提供いただき感謝します。

◆生徒手帳（授業の時間割）

平成元年時の２年生、月曜日の５校時分（65分授業２年目）は判明。ほかに昭和54年卒の１～３年次、平成２年入学の１年次等は収集済み。

◆卒業記念品

コーヒーカップ（昭和54年卒のアメ色・英文入り・皿付き、及び昭和58年卒の白色・校章校歌一節入り）とネクタイピン（箱付き、校章入り）、校章入りのストラップ（時期不明）などは収集済み。他の記念品に関して情報を。

◆マラソン大会の内容

昭和20年から昭和41年まで実施か。コースは不明。

◆クラス対抗駅伝の内容

昭和35年と昭和37年に実施していることのみ確認。ただしコースは不明。このほかの年次の情報をお寄せください。

◆太平山登山、山頂の山小屋での記念写真

昭和54年卒の２年生時、旭又コースの山頂での写真のみ確認。他は確認できず。

◆学年色

赤、青、黄の３色で、ズックの紐、体操着の腕のライン、自転車のステッカーに使用していたようだ。この学年色に関した情報の提供を。写真があれば最高。

※　※

これらの情報を求めていますので、よろしくお願いします。

（１５０周年記念誌編集特別委員会　半田和彦）

廃道に生きる

廃道探検家・フリーライター　平沼 義之（平成9卒）

道路としての役目を終えて棄てられた道を、廃道という。私は敢えてそこへ行く。藪をかきわけ、崩れ落ちた橋を越え、土砂に埋もれたトンネルを潜り、時に激流に身を浸しながら、北は北海道から、南は小笠原諸島まで、相棒の自転車とともに探索した廃道は、20年で1000カ所を超す。

幼い頃から、車や鉄道での移動時間が、その先の観光地で過ごす時間よりも好きだった私は、中学生になってマウンテンバイクを手に入れると、秋田県の全ての林道を走りたいという野望を抱いて、あちこちを走り回った。

最初は険しい山岳道路を自らの脚力で克服することだけが目的だったが、次第に、自分だけが結末を知っていると思えるような道が欲しくなった。そして、荒れ果てた廃道こそが、その欲求を満たしてくれることを知った。危険を冒して進み、その先に、数十年ぶりに人の目に触れたと思えるような美しい風景を見ると、私は天下を取ったような気分になったものだ。

秋田市の仁別サイクリングロードで

初期に走破した廃道で記憶に残るのは、秋田県の玄関口として県民なら誰もがその名を知る、仙岩峠の旧国道だ。昭和51年に現在の仙岩トンネルが開通するまで使用されていた九十九折りの旧道は、私に廃道探索の全ての苦しみと魅力を教えてくれた、我が廃道の父である。その後も何度訪れたか分からないが、行く度に老いさらばえて荒れていくのが、廃道の現実とはいえ辛い。

明治14年に福島県と山形県の間に開通した奥羽山脈越えの道には、「万世大路」という名前がついている。山脈の頂上に、当時国内最長のトンネルが貫かれ、明治天皇が開通式に臨んだ。そしてこの名を与えた。明治政府による東北地方開発の象徴ともいえる偉大な道だったが、必要性に支配された道路の世界は非情である。昭和41年に新道が開通すると、何の躊躇いもなく廃止された。この由緒ある道路名だけは、新道に引き継がれたが…。

仁別地内の現状

この初代の万世大路は、今でこそ近代化遺産としての価値が再評価され、復活の兆候を見せているが、私が初めて訪れた平成15年当時は、ひどい藪の海に埋もれていた。山形側から半日がかりでたどりついた県境のトンネルは、内部が崩壊して通り抜けられず、一度下山して改めて福島側から入り、ようやく全線を走破した。大変だったが、明治と昭和初期に造られた2世代の廃トンネルが青空の下に並ぶ姿は、〝廃道の聖地〟の趣だった。この廃道も私を永く虜にした。

右に掲載した写真は、私と同様、かつて読者諸兄の多くが登下校に利用されたであろう、仁別サイクリングロード（秋田駅から秋田高校下を通って国民の森へ向かう）の仁別地内の現状である。この道も奥地はすっかり廃道になっている。廃道は、身近にあるのだ。

私の廃道探索のレポートをつづったサイト「山さ行がねが」へ日々寄せられる訪問者からのコメントを読むと、「新婚旅行で通った道で懐かしい」とか、「亡くなった父が生前に建設に関わった道が、どんなところか知ることができた」などというものがあり、体を張って自分のためにやってきたことが、少しは他人様の役に立ったかと報われる思いがする。

廃道が日本にいくつあるのかは誰も知らない。とにかく膨大な数があり、その全てを一人で征服することは不可能だ。この生が続く限り、私は廃道を走り続けたい。

Profile

ひらぬま・よしゆき／昭和52年千葉県生まれ。小学6年の夏に秋田県へ転居したことをきっかけに、「山チャリ」（マウンテンバイクで林道を走る）に目覚め、峠の旧道に愛着を覚えた高校時代を経て、大学中退後に就職。平成12年に開設した廃道探索サイト『山さ行がねが』は現在までに4500万アクセスを数える。平成19年からは、廃道探索で生計を立てる日本初のプロ・オブローダーとして活動中。道路マニア・トンネルマニアとして、各種メディアに出演。著作に『国道?酷道!? 日本の道路120万キロ大研究』『廃道探索　山さ行がねが』（いずれも実業之日本社）などがある。秋田市在住。
サイト：「山さ行がねが」http://yamaiga.com/

一級建築士事務所
株式会社 草階建築創作所
代表取締役社長
渡邉啓宇（ケイウ）（昭和48年卒）
秋田本社 〒010-0001
秋田市中通2丁目2番32号　電話 018-833-5555(代)
E-mail:k-watanabe@kusakai.co.jp FAX 018-832-3353
東京支店 〒188-0014
東京都西東京市芝久保町3丁目3番4号　電話 042-462-2188(代)
E-mail:kusakai-tokyo@par.odn.ne.jp　FAX 042-462-1733

代表取締役会長
田中　誠
（昭和48年卒）
株式会社誠文社
〒010-1612
秋田市新屋豊町4番64号
TEL.018-864-1011　FAX.018-864-1010

J.B. BRIAN Inc.
代表取締役／不動産鑑定士
補償業務管理士（土地評価部門）
不動産カウンセラー
白沢　啓（昭和48年卒）
E-mail boss9001@s-kantei.co.jp
公益社団法人日本不動産鑑定士協会連合会会員
補償コンサルタント（土地評価部門）登録
一般不動産投資顧問業登録
ジェイ.ビイ.ブライアン株式会社
秋田市八橋新川向10番15号 〒010-0965
TEL.(018)862-8095　FAX.(018)864-6164
URL http://www.s-kantei.co.jp
不動産鑑定評価　タウンマネジメント

有限会社 大越調剤薬局
代表取締役
大越英雄（昭和48年卒）
大越薬局・本社
〒015-0809 秋田県由利本荘市本荘117番地
TEL.0184-22-3903 FAX.0184-23-5011

ナイチンゲール記章を受章 秋山正子さんに聞く

がん患者や家族が予約なしに気軽に立ち寄り、無料で相談できる「マギーズ東京」（東京・豊洲）を開設、センター長を務める秋田市出身の秋山正子さん（69）＝旧姓・辻、昭和44卒＝が、看護活動で功績のあった人に贈られるフローレンス・ナイチンゲール記章を受章した。訪問看護にいち早く取り組み、患者や家族に寄り添いながら「生きる喜び」を支える先駆的活動が国際的に高く評価された。その現場を訪ね、秋山さんに自らの活動への思いなどを語ってもらった。聞き手は大地進・広報委員長。

Profile

あきやま・まさこ／秋田市土崎生まれ。秋田高―聖路加看護大卒。1992年から東京・新宿区で訪問看護にいち早く携わる。日本の訪問看護のパイオニアの一人。2001年に白十字訪問看護ステーションを経営するケアーズを設立。11年に新宿区の巨大団地の商店街の一画に「暮らしの保健室」を立ち上げ、16年には東京・豊洲に認定NPO法人「マギーズ東京」を開設し、共同代表理事とセンター長を務める。東京都新宿区在住。

フローレンス・ナイチンゲール記章＝赤十字国際委員会から2年に1度、顕著な功績のあった看護師らに贈られる世界最高の記章。ナイチンゲールの生誕100周年を記念して1920年から始まった。今回は秋山さんと、日赤看護師同方会理事長の竹下喜久子さん（69）の日本人2人を含む19カ国の29人が選ばれた。

がん患者らに寄り添って

8月7日に都内のホテルで、日本赤十字社名誉総裁の皇后さまから直接、ナイチンゲール記章を授与されました。緊張しましたか。

秋山 やはり緊張しましたね。実は、ナイチンゲール記章の対象は赤十字に関連した人が中心なんです。その点、私は赤十字に勤めたこともないし、訪問看護や地域支援など病院の外で活動する、いわば在野。私が記章を頂いたけれど、私と同じような活動をしている人の励みになるし、そういう意味で今回の受章は非常にありがたいし、うれしい。

そもそも看護、そして訪問看護の道に進んだきっかけは何だったのですか。

秋山 私が秋田高1年の時に71歳の父を胃がんで亡くし、それが看護の道へ進む大きなきっかけとなりました。そして1990年には、2歳上の姉が41歳で肝臓がんのため旅立ってしまった。姉は「自宅で家族と最期の時間を過ごしたい」と願い、夫と子供2人と闘病しながら自宅で暮らしました。その姿に接して痛感したのは、「最期にかけがえのない時間を家族と過ごすことは、いかに大切か」ということ。それで92年から訪問看護師としての活動を始めたのですが、当時はまだ訪問看護の黎明期。私の中では、病院から家に帰れない人を少しでも家に帰すことは今後、重要になってくると感じていました。

マギーズ東京でスタッフと打ち合わせる秋山さん（左）

2011年7月に「暮らしの保健室」、2016年10月に「マギーズ東京」を開設しましたが、随分ご苦労されたと思います。

秋山 実は2008年に東京で開かれた国際がん看護セミナーでイギリスのマギーズセンターのセンター長の話を聴き、マギーズの存在を初めて知りました。その3カ月後、仲間を募ってイギリスへ行き、マギーズを見学した結果、「これは本物だ。ぜひ日本にもほしい」。そう思ったのです。

「生きる喜び」を支える

具体的にはどういうことですか。

秋山 病院の相談センターとは異なり、予約が必要ない、相談は無料、そして専門家がゆっくり話を聴いてくれる。この3点ですね。しかも、すべてチャリティーなんです。その考えに基づき2011年に「暮らしの保健室」を開設しました。がんに特化しない「よろず相談所」ですね。そして2014年に、乳がんを経験し患者支援活動をしている鈴木美穂さん（元日本テレビ記者）が保健室を訪ねて来て知り合い、私と鈴木さんの二つのチームでマギーズ東京のプロジェクトを開始。土地を探し、クラウドファンディングにも挑戦して1年半で開設にこぎ着けました。

マギーズ東京とは、どんな所ですか。

秋山 家庭的な雰囲気の中で医療知識のあるスタッフが、まるで友人のように患者に寄り添う。言ってみれば、病院と自宅の中間にある「第二の我が家」といったイメージ。現在、看護師や保健師、心理士など約30人で運営しています。来訪者は開設3年弱で1万8000人（7月末）。都内だけでなく、全国から来てくれます。

どんな相談が多いですか。

秋山 それこそ多岐にわたり、一言では言えません。病気のことだけではありませんから。例えば「がんになったら結婚が破談になった」「子どもの受験時にがんになった。どうしたらいいか」「復職したいが、うまくいかない」などなど。病院ではなかなか聞けませんよね。話をしているうちに自信を取り戻し、がんとしっかり向き合った人も多い。自分を取り戻して自信を持てば、前を向けるのです。

秋田への思いをお聞かせください。

秋山 人間の尊厳を最期まで持つことはとても大切。そのためのケアチームを秋田でも充実させてほしい。秋田大学に「おらほの保健室」があるので、大いに利用すべきです。火種が小さいうちに相談すれば、より良い選択ができるのです。

すずき・よしたか／YOSHITAKAで活躍。1981年秋田市生まれ。秋田高―東京スクールオブミュージック卒業後、本場のダンスを学ぶため2005年に渡米。NYハーレムにあるアポロシアター「アマチュアナイト」で準優勝2回。Jazzに合わせて高速ステップで踊るUK Jazz Danceを得意とする。2009年、世界1周ダンス放浪の旅を経て帰国。SMAP、ケツメイシ、氷川きよしのバックダンサーを務め、2012年UK Jazz Dance修行のために渡英。ハイネケン、SONY、Amazon CMやIncognito PVに出演。2014年に一時帰国し、故郷秋田で藤田嗣治の大壁画「秋田の行事」に出会い翌年、日吉八幡神社にて踊りで表現し奉納。2016年には400年以上続く秋田市無形民俗文化財「羽川剣ばやし」の失われた剣舞を創作し復活させたほか、母校の秋高音頭復活プロジェクトで生徒を指導した。現在オランダに拠点を置き、ヨーロッパ各地でUK Jazz Danceと日本の民俗芸能を融合させた独自の表現で公演を展開している。

表現者として

欧州で活躍するダンサー　**鈴木 祥高**（平成12卒）

パリから車で小1時間ほどにある小さな村、ビリエルバクルに藤田嗣治のアトリエMaisonatelier Foujitaがあります。今年8月、その村に1週間滞在しながら、アトリエで2日間のダンス公演と村の小学校の子供たち約100人にダンスワークショップを行いました。これは、ヨーロッパ文化遺産の日（European Heritage days）のイベントとして行われたもので、公演では藤田嗣治の大壁画「秋田の行事」を表現した踊りや「なまはげ」「羽川剣ばやし」「秋田荷方節」を踊り、子供たちにはドンパン節に独自に付けた盆踊りの振りを教え、みんなで輪になって踊りました。

一時帰国していた時に故郷秋田で藤田嗣治の「秋田の行事」に出会い、衝撃を受け、感動し、それを表現して初めて踊った時から約4年。あの時、自分からぜひ踊らせてほしいとお願いし、やることが決まったものの、一体どうやって壁画を踊りで表現すればいいのか、しかもたった1人で。まるで自ら飛び降りた深い暗闇の底で、何も見えず、果てしなく途方に暮れたのを覚えています。

ヨーロッパにて（左がYOSHITAKA）

とにかく次の日から毎日県立美術館に通い、壁画と向き合うことから始めました。最初はただボーっと眺めているだけでしたが、そうしているうちに少しずつ、描かれている人々の一人一人の目、表情、感情、仕草、姿勢、筋肉、重心、指先などに意識が移っていき、その場所でその人がどんなことを思い、動き、生きているのだろうと考えるようになりました。そして可能な限り秋田県内を巡り、手踊りや神楽など民俗芸能を習ったり祭りに参加したりしました。特に、藤田嗣治が随筆の中で「雪の肌の様に純であり尊い」と残した仙北の手踊りを習ったことと、子供の頃から見ていた竿燈祭りに初めて参加し、竿を上げたことは、その動きや感触、手応えが秋田の行事を踊る時の大きな力となりました。そうして約5ヶ月間、毎日壁画を眺め続け、本番14日前から実際に体を動かす制作作業を始め、15日目に本番が来るように踊りをつくっていきました。今でも秋田の行事を踊る時は毎回、この15日間の手順を踏みます。

その後再びヨーロッパに渡りオランダに拠点を構え、この3年間いろいろな国で、いろいろな人の前で踊ってきました。その間、秋田を遠くから思いながらヨーロッパで培ったのが、今の自分の秋田の行事の踊りです。今回藤田のアトリエで踊る機会をいただき、踊りを見たフランス、ビリエルバクルの人たちやアトリエ関係者からいただいた、たくさんの拍手、感想は、信じられないくらい、言葉にできないくらい、うれしいものでした。

正直今でも何が正解か分かりませんが、ここまで一人のダンサー、表現者として生きてきて感覚的に確信しているのは、自分が何かに感動した時、その感動したものには表現者として生きる上でとても大切な要素が含まれていること。一日一日、毎日を地道に、一生懸命に生きていくことでしか自分の望む方向へは進めないということです。この3年、ここまでよく生き残ってくることができたなとつくづく思うような生活ですが、どこまでも表現者として一生を歩きたいと思います。

フランスにある藤田嗣治のアトリエにて（今年8月）

ZOOM UP!

たかはし・のぞみ／1974年秋田市生まれ。明治大学文学部卒業後、写真家・川村悦生氏に師事。フリーランスカメラマンとして活動する。2013年4月に家族とともに帰秋。カメラマンと並行し、“ふつうの人のふつうの暮らし”がコンセプトのリトルプレス「yukariRo」を制作。2019年9月から秋田魁新報文化面にて特別企画「ハラカラ」が開始（毎月第4金曜日掲載）。<ユカリロ編集部／写真左が筆者>

動けばなにかが見えてくる

高橋　希（平成4卒）

浪人を機に上京、大学卒業後に弟子入りを経てカメラマンになりました。帰郷して7年目になります。戻ってから現在までの活動をざっくり説明すると、アートイベント「オジフェス」、“ふつうの人のふつうの暮らし”をテーマとしたリトルプレス「ユカリロ」、初雪から雪どけまでの期間限定でオープンする焼き芋屋「オジモイモ屋」などなど。これだけ見ると行動的なイメージを抱く方がいると思いますが、私は完全なるインドア派。

ではなぜこういう動きを始めたのかというと、自由に表現できる場をつくりたかったから。戻った当初は写真の仕事も友人もなく、心身ともに閉じこもる日々でした。ならばひとまず、やりたいことや好きなことを自分にできる範囲で表現してみよう、ダメだったら生きていくために働こうと思って動き始めたのです。

そんな崖っぷちのなか始めたオジフェスですが、内容に興味を覚えて足を運んでくれた人、客で来たはずなのに気付いたら皿洗いをしていた人など「興味が一致して年齢不問でつながれる場」となっていたように思います。年に一度のペースで4回開催してきたこのイベントは2017年で一旦おやすみし、現在は深度を追求するべくユカリロ編集部をメインに活動しています。

A4用紙をホチキスで束ねて冊子にするところから始めたユカリロは、現在03号まで発刊。18年の02号発売時に秋田魁新報社の文化部から取材を受けたことが発端となり、「ローカルメディアの挑戦」を軸とした特別企画「ハラカラ」が19年9月からスタートしました。ハラカラでは私たちのほか、秋田でリトルプレスを制作している「勝手に宣伝組合」と「秋田人形道祖神プロジェクト」が持ち回りで特集記事を担当します。この3組の共通項は「誰に頼まれたわけでもないのに、表現せずにはいられなかった人たち」であること。自主的に動き始めた人が媒体メディアの垣根を超えて表現していけるのは面白いことだと思いますし、地方だからこそ始められる動きだと感じています。

今まで定義されてきたあらゆる境目の「基準」は変化し、ゆるやかになったと感じるなか、自分を制限するなんてもったいない。ユカリロやハラカラが幅広い世代に認知され「私もなにかやってみたい！」という人が現れることを夢見て、今後も動き続けていきます。

自分とラグビー

内藤 慎平（平成13卒）

9月に開幕したラグビーワールドカップ日本大会が先日、幕を閉じました。日本代表の歴史的な勝利と大躍進もあり、連日多くのメディアで取り上げられ、大変な盛り上がりを見せました。これまでラグビーに興味や関心のなかった人も巻き込んだ日本中の熱狂ぶりに驚きながら、私もこの貴重な時間を存分に楽しませてもらいました。

私は高校卒業後、大学、そして社会人で選手を続けた後に、地元で教員・指導者としての道を歩むことができたわけですが、ここに至るまでに2つの大きな転機がありました。

1つは高校時代の自分です。在学中の1、2年時は伝統校である秋田工業と優勝を争うような強いチームでしたが、私は主力となった2年時から怪我を繰り返し、少し練習をしては休むという悪循環に陥っていました。3年時は主将でしたが、心身ともにボロボロの状態で、結局最後の大会は初戦敗退に終わりました。その後、その悔しさや不甲斐なさを繰り返したくないという一心で努力した結果、幸運なことに大学日本一を経験し、社会人でプレーする道が開けました。このように、秋高時代は自分にとって苦い思い出が多いのですが、あの高校時代の経験や学びが今の自分をつくり上げたと思っています。

もう1つは、秋田に帰る決断をした時です。現役引退後、工場の人事部門に従事していましたが、「一生に一度の人生。自分にできること、自分にしかできないことは何か」と考え、自分の経験を秋田に還元しようと退社を決めました。この決断ができたのも「汝、何のためにそこにありや」の精神があったからと言えるかもしれません。あのまま企業に残ることに未練がなかったといえば嘘になりますが、秋田に帰ってきてからこの道を選んだことに後悔したことは1秒もありません。

現在の秋田のラグビー事情は、非常に厳しいものがあります。少子化に加え、さまざまな娯楽に溢れた中でラグビーを選ぶ子どもは少なく、高校も合同チームでの出場が増えています。今回のワールドカップでの影響を受けて秋田のラグビー熱が高まることに期待しつつ、日本代表のような「地元チームの大躍進」を秋田の高校が全国の舞台で見せられるよう、頑張っていきたいと思います。

ないとう・しんぺい／1982年秋田市生まれ。秋田高―早稲田大学人間科学部卒。大学2年と4年時の2回、ラグビー大学選手権優勝。U21日本代表。卒業後、トヨタ自動車に就職。社会人ラグビーのトップリーグ「ヴェルブリッツ」で6年間プレー。引退後5年間の社業専念を経て、高校の保健体育教諭として地元秋田に帰郷。現在、金足農業高校に勤務。ラグビー部監督。

あの頃の思い出 5

48年前の岩盤規制の緩和

着装の自由化

赤平 真樹雄（66）＝昭和47卒、当時の生徒会長

あかひら・まきお／1953（昭和28）年9月、秋田市生まれ。1976（同51）年に東大法学部卒業後、同年4月に第一勧業銀行に入行。銀座通支店副支店長、審査第2部審査役、大井町支店・支店長などを歴任し、2000（平成12）年に第一勧業信用組合経営企画室長。同組合常務理事・経営企画部長、専務理事を経て2014（同26）年、副理事長に就任。2019（令和元）年6月に副理事長を退任した。

秋田高校時代は生徒会長としてリーダーシップを発揮し、着装自由化の先頭に立った。現在は東京都北区在住。長男は独立し、妻と長女の3人暮らし。趣味は散歩と読書。

1971（昭和46）年11月12日に「着装の全面自由化」決議が行われました。1969年6月の男子生徒の夏期着帽自由化から始まった長い自由化運動の一つの結論でした。

一つの結論というのは、当時、これが大きな改革の出発点であると考えていたからです。最終的にはすべての規制を撤廃し、教師と生徒が自由かつ自主的に運営できる学園を目指していました。

結果としては、「着装の自由化」が目的そのものにすり替わり、それが達成されたという点のみがクローズアップされました。

消すな！着装全面自由化
回答から今後の展望
秋田高新聞

着装自由化問題を特集した昭和46年5月18日発行の「秋田高新聞」

本質的、哲学的問題を議論

しかしながら、2年半にわたって議論された中味は、かなり本質的かつ哲学的なテーマを含むものだったと思います。

「自由」とは、「自治」とは、「規制」のあり方等、「組織と人間」そのものに関わる議論が行われました。

特に「自由」の議論については、『自由への道』（サルトル）、『自由からの逃走』（フロム）等の書物のほか、「自由のコスト」「自由の責任」等の真に深みのある議論ができたと思っております。

あまり知られていないことですが、1971年9月11日、12日の秋高祭では、テーマソングを「君が代」とすることを提案しました。しかし、これだけは中止するようにとの強い意見があり、結局「翼をください」に変更することになりました。それでも、秋高祭の両日は、革命前夜（言いすぎ！）のようなにぎわいがあり、本来の意味のフェスティバルであったとの印象が今も強くあります。

相互の立場尊重しフェアに

あの時代を振り返ると、あの時ほど真剣に時間をかけて議論をし、解決策＝出口を見つめたことはなかったような気がします。それは、戦略とか戦術といった、方向を導きだすための論理ではなく、「自由」という出口に対す

わかみ歯科クリニック
院長／歯学博士
Oralphysician
小玉 尚伸
（昭和58年卒）
〒010-0422 秋田県男鹿市角間崎字百目木48-1
TEL：0185-46-2828 FAX：0185-46-2335
http://wakami-dental.jp

パッケージの桑原
代表取締役社長 桑原 透
（昭和58年卒）
本社／秋田市卸町四丁目7番9号
TEL018-863-1818

内科・消化器内科・糖尿病内科
くらみつ内科クリニック
倉光 智之 昭和58年卒
〒010-0951 秋田県 秋田市 山王5丁目10-28
Tel：018-867-7411
Fax：018-867-7412
E-mail：info@kuramitsu-clinic.com
http：//www.kuramitsu-clinic.com

株式会社 相場商店
専務取締役
相場 宏泰
（昭和58年卒）
秋田市楢山登町1番20号 〒010-8520
TEL.018-833-8766（直通）FAX.018-835-2231
URL：http://www.aibashouten.co.jp

る情熱しかなかったからだと思っております。

さらに、もう一つ大事なポイントは、「自由化」過程論です。一見すると、流れに身をまかせていたようですが、実際は、学校側と生徒側双方向のかなり激しいやりとりがありました。最近の香港の民主化運動とは方法論が大きく異なり、お互いの立場を尊重するフェアな議論展開を図れていたのではないでしょうか。

もちろん、1971年9月14日の生徒総会の中での合同委員会（学校側と生徒側それぞれの着装委員の合同委員会）の開催により、最終的な決議を行ったことが、フェアといえるかは議論のわかれるところです。

しかしながら、閉鎖的な会合で（密室の中で？）決めなかったことは、少なくとも我々にとっては大きなことでした。

秋田高新聞

着装自由化へ大きな前進

試行期間を実施

主体制の回復を

権利と義務との原点へ

自主規制

試行期間について掲載した「秋田高新聞」の1面
（昭和46年10月21日発行）

卒業時の後輩の言葉に感激

そして、現在、民主主義とポピュリズムの問題が話題になっている中、一方的な判断のもとに決定することを問題視し、改めさせたのは、正しい方向であったと考えています。それでも、9月14日の結論について、尊敬するある教師から、「赤平君、最低の結論ではあったが、最悪ではなかったからよかった」と言われたことが、今も心に重く残っています。

最後に、1972年3月に卒業した私共の送別会にあたって後輩の皆さんからのメッセージは「孤立を恐れず、連帯を求めて」であったことを披露させていただきます。…感激しました。

着装自由化までの経過

※昭和47年3月7日発行「羽城第23号」より

44年	6月	着帽自由化運動起こる
	9月	ワイシャツの胸に学年章をつることを条件に夏期の着帽自由化認められる
45年	4月	着装全面自由化要求署名運動起こる
	9月	自由化及び生徒心得改訂推進委員会設置について決議
	10月	合同委員会発足
46年	1月28日	学校側からの第一次回答
		── 決議理念は認めるが、日常生活において教育指導という観点から規制が必要。以後具体的に検討
	2月 4日	学校側への期限付回答要求
		── 教育指導とは何か。又、帽子・制服・履物について自由化を認めるか。
	3月 5日	学校側から第二次回答
		── 制帽の義務付け廃止。制服、外ばきの義務付け廃止は認めず、内履は検討
	8月	怠慢批判決議、夏期全面着装自由化審議要求
		3Cより提出される。
	9月 2日	生徒側着装委員会の結論。試案作成
		── 自主規制は個人の自覚と相互の規制に依存。正当性実証のため、9月11、12日と9月17日から一か月間の義務付け廃止
	9月10日	生徒総会。試案確認、試行決議が可決される
	9月14日	全校生徒傍聴の前において合同委員会開催
		── 17日より試行期間にはいる ── 期間中に話し合いを深めることで一致。生徒総会において全会一致で承認
	9月17日	試行期間開始
	11月12日	**着装自由化出発決議 ── 自由化なる**

着装自由化について

※現在の生徒手帳より抜粋

着装自由化には,少なからず対社会的要素が含まれているのは明らかである。われわれはさかんに社会へのアプローチを試みながらも,その実現は困難をきわめている。自由化している学校がごく一部である現在,われわれの自由化は常に実証期間なのである。

（中略）

最後に着装自由化は過去の出来事として忘れ去られるべきものではないことを銘記しておきたい。われわれは自主的な高校生活の創造という崇高な理念を,これからも不断の努力をもってめざしていかなければならない。それゆえわれわれにとって着装自由化の意味するものは常に新しいのである。

1972年12月

着装問題に関する生徒心得改訂推進生徒委員会

（付記　1972年12月16日合同委員会において承認）

歯科　歯科口腔外科　小児歯科
せき歯科クリニック
院長 関　宏（昭和58年卒）
医学博士
日本口腔外科学会認定　口腔外科専門医
〒010-0063 秋田市牛島西3丁目6-16
TEL 018-874-7717
FAX 018-874-7817

●● 歯科・小児歯科 ●●
わかさ歯科クリニック
院長 若狭　隆（昭和58年卒）
若狭るみ子
〒010-0041
秋田市広面字谷地田83-3
TEL 018-837-8567

Hiratoku
株式会社 平徳本店
専務取締役 平澤　敦夫（昭和 45 卒）
常務取締役 佐藤　潔（昭和 58 卒）
〒010-0001 秋田市中通二丁目４－４
TEL:018-833-2228 FAX:018-832-7329
E-Mail:hiratoku@hiratoku.co.jp
URL:http://www.hiratoku.co.jp

日曜日も診療しています!
歯科・小児歯科・歯科口腔外科・矯正歯科
医療法人 南秋会
わかばデンタルクリニック
院長 後藤　英盛（昭和58年卒）
〒010-0101 潟上市天王字上北野60-1
0120-273-118（いい歯）
P完備
【併設／託児室コロボックル】
http://wakaba.ftw.jp/

7度目の亥年を迎えて

昭和29年卒同期会（花見の会）

昭和29年卒80期会は、例年桜の時節に花見の会と称して同期会を行っている。今回は平成の最後・7度目の亥年を迎えたこと・卒業65周年という節目に当たることから少し趣向を変えてみようということで、去る4月26日、秋田市千秋公園「松下」を会場に31人が参加して開催された。大広間であきた舞妓の踊りを観賞するのは初めてという人が大部分で、好評であった。

開会の挨拶で、同期の大里祐一君がこの春、「第7回日本医師会赤ひげ大賞」を受賞されたことが草彅稲太郎代表幹事から祝意を込めて紹介された。次いで、横浜から参加の新井清勝君の乾杯で開宴となり、舞妓さんのあでやかな踊りが披露される中で酒を酌み交わし、最後に「天上はるかに」を元気いっぱい歌い、再会を約して散会した。

この日は、秋田新幹線こまちの車両トラブルが発生。列車の運休遅延により、本会の開会や進行に少なからぬ影響があったが、桐田賢二君を中心に手際よく対処してくれ、滞りなく終了できたことを深く感謝したい。（森谷 裕二 記）

満八十歳代を迎えて集う

昭和33年卒同期会・三三会

9月5日（木）ホテルメトロポリタン秋田で、27人（県外から6人）が集い、今年の例会、祝う会を開催。

齊藤信行幹事の司会で始まり、これまでに逝去された144人へ黙祷。校歌5番まで斉唱。会務・会計報告が行われ、承認。全員揃っての記念写真撮影。

祝宴は佐藤代表幹事の歓迎挨拶に続き、熊谷光太郎氏（東京三三会代表）の乾杯でスタート。今年の例会は皆様からのスピーチ中心。宮崎林次郎幹事から特別な思いと会員への感謝。伊藤俊成氏の叙勲の喜び、高島清子氏の秋田県芸術選奨受賞の喜び、荒川修精氏、渡辺正典氏、髙橋良明氏のユーモアあふれる貴重な体験談等、これから過ごすのに役立つ事が多かった。そして各々テーブルを回り、楽しいひとときを過ごすことができた。盛り上がる中、全員で校友会歌を力強く斉唱。脇坂良子幹事の“元気で又お会いしましょう”との力強い宣言で閉会。未知なる80歳代への思いを馳せながら再会を約して会場を後にした。（佐藤 満雄 記）

80歳だよ!! 32会

昭和32年卒同期会・32会

9月6日、秋田市のホテルメトロポリタン秋田に、昭和32年卒業生31人（県外参加者4人）が集まりました。

昭和に生まれ、昭和に育ち、昭和を創ってきた世代です。会には、恩師青山成美先生（数学解析、御年92歳）、紅一点の平元智慧さん（在学2年時、米国留学）も出席され、盛り上げていただきました。我が母校が秋田駅前にあったことを知る人は少なくなり、卒業してから62年、時代は大きく変化しています。

当時の校則には、「通学は原則として革靴とする（足駄は可）」とあるものの、大半は下駄でした。また、万年筆、腕時計を持っている人もまれでした。しかし、物のない時代、運動部の活躍は素晴らしく、甲子園、国体、インターハイ等全国に名を馳せました。修学旅行、運動部の遠征には米持参が当たり前でした。

時の流れは早く、あっという間に校歌斉唱の時間となり、次回を約するも、果たしてどうなるものか？　元気で楽しい令和の32会でありました。（國安 志郎 記）

通常総会を見据えて

紫紺の会（応援団OB会）

5月18日（土）、秋田市の協働大町ビルを会場に、令和元年度の総会を開催しました。初の女性会員を、こちらも初となる卒業時入会者として迎え、11人が出席しました。決算・予算や活動計画のほか、会則改正、役員改選も満場一致で承認。新たな体制でスタートを切りました。

総会後は懇親会に移り、母校への思いを語りながら杯を傾け合いました。6月8日には有志が同窓会館（羽城館）に集まり、校友会歌の練習を行いました。同窓会から出演依頼された通常総会後の懇親会に向けた確認をするとともに、応援委員会の菊地文雄顧問（平成8卒、紫紺の会会員）との情報交換も行うことができました。（保坂 尚吾＝昭和55卒 記）

❷原稿の最後に執筆者名（支部等にあっては卒業年次も）をお忘れなく。
❸投稿いただいた原稿、写真はお返ししません。どうぞご了承ください。〈広報委員会〉

節目を迎え結束確認

卓球部OB会

7月13日秋田市のイヤタカで、卓球部創部70周年記念式典・祝賀会を開催した。

当日は、中村順子同窓会副会長、安田浩幸校長はじめご来賓の皆様にもご出席いただき、現役部員18人を含む総勢65人の出席者となった。記念式典では、来賓を代表して安田校長から、厳しい環境下においても練習に励む生徒へのねぎらいの言葉と文武両道の実践に向けた激励の言葉を頂戴した。また、OB会から現役部員に記念品が贈られた。

3年生の旧主将はOB会からの支援に感謝しつつ全県総体で敗れ悔しい思いをしたこと、2年生の新主将からは来年必ず雪辱を果たす決意が語られた。

その後、小林忠雄先輩（昭和28卒）の乾杯の発声で懇親会が始まり、昔の苦楽を肴にあるいは懐かしい写真を手に話が弾む中、時間は進み、最後は、男子は平成26年以来の優勝、女子は初優勝に向けてOB会の結束をより強固にすることを誓って散会した。（会長・野尻　聡＝昭和52卒 記）

創部70周年の祝賀会開催

軟式野球部OB会

平成から令和への節目の年に、軟式野球部は創部70周年を迎えた。6月19日、秋田市のルポールみずほに25人が参加して秋田高校軟式野球部創部70周年祝賀会を開催した。

はじめに、赤坂光一会長（昭和31卒）が挨拶し、創部70周年の想いと今後の展望を語った。次に、物部長幸部長（平成6卒、OB会員）と保護者会の三浦修会長へ、現役部員の必勝を祈念して激励金を贈呈。

さらに、この8年間軟式野球部を指導された髙階一也前監督に感謝の意を込め記念品を贈呈した。

贈呈式後、澤田正司副会長（昭和31卒）の乾杯の発声で祝宴がスタート。県外から駆け付けたOB会員はじめ参加者から、当時のエピソードやそれぞれの想いが披露された。平成2年から全国大会からは遠のいているものの、近い将来後輩たちがまた全国大会で勝利できるよう全力でバックアップすることを確認するとともに、OB会の団結をさらに深めることを誓い合った。　（事務局・鈴木 孝友＝平成4卒 記）

総会兼喜寿を祝う会開催

昭和37年卒同期会

昭和37年卒同期会は6月28日、秋田市の秋田キャッスルホテルで総会兼喜寿を祝う会を開催した。出席者は福岡市の小野明子さんはじめ、県外からの16人を含む66人で、2年前は50人だったので大盛会であった。

総会では、寺田俊夫君を会長に再任したほか、42人の新役員が選任された。記念講演は、口腔外科の権威で日本癌治療学会功労会員の岡部貞夫君が「口のがんと健康長寿に向けて」と題し、口腔がんの話を分かりやすく解説。これまで手掛けた2,300件の手術を全てデータファイル保管しており、おそらく世界にも例がないだろうとのことだった。喜寿のご祈祷は若宮八幡神社の宮司田村禎助君で、朗々としたご祈祷に出席者一同、喜寿に対する思いを新たにしたことであった。

懇親会では、恒例により県外からの出席者が近況を報告した。中には、千葉から1300ccのバイクで駆け付けた者、一日2万歩を日課にしている者、日本百名山を2度登攀した者、あるいは最近再婚した者もいて、喜寿には喜寿なりの夢やロマンがあると実感させられた次第。至福の時はあっという間に過ぎ、酒井昌弘君の音頭で校歌を熱唱、亀田芳彦君の三本締めで締め括ったのであった。　（事務局・関　徹彌 記）

米寿の恩師に励まされ

昭和42年卒同期会・四二会

昭和42年卒の同期会・四二会は9月7日、秋田市の協働大町ビルに元母校の名物物理教師・横山侑先生を来賓にお招きし、令和初の定例総会を開いた。初めに参加者65人が校歌を5番まで声を張り上げて合唱。

続く挨拶で大久保代表幹事は、幹事会の承認を得て四二会の会費収入の一部を、母校生徒たちの海外研修支援などを主な目的とする同窓会教育振興基金と、学食復活プロジェクトへの寄付に充てるため拠出したと報告した。

米寿を迎えてなお意気軒高な横山先生から激励のお言葉をいただいた後、秋田で生涯を閉じた江戸後期の漂泊の旅行家・菅江真澄を長年にわたって研究している小笹鉄文君が、「菅江真澄はすごい人」と題してミニ講演を行った。松田悦朗君の発声で始まった懇親会は、懐かしい顔ぶれも交じってのっけから大盛り上がり。最後は全員起立して校友会歌全4番を大合唱、再会を約してお開きとなった。　（石井 仁 記）

「つどい」投稿について

❶「つどい」欄への投稿は毎回多数にのぼるため、スペースの制約からやむを得ず、原稿を短縮したり次号に回すことがあります。**原稿は概ね400字（原稿用紙1枚）**を目途にお願いします。

還暦同期会に118人集う

昭和53年卒同期会

去る8月14日、秋田市のアキタパークホテルで還暦同期会（5回目の同期会）を開催しました。6人の恩師（小野寺清・川口百合子・米田進・三船新次・柴田義弘・高橋祥祐の各先生）をお迎えし、同期118人が参加しました。

冒頭、古四王神社の亀井哲夫宮司（同期会会長）による神事を行い、その後は水澤彰人・田畑（旧姓佐藤）博子両氏の司会で、20人の物故者に黙祷をささげました。亀井会長挨拶・恩師ご紹介・恩師を代表し県教育長の米田進先生からご挨拶いただき、生徒会長だった柏崎洋樹君の乾杯で懇親会が始まり、その後柴田義弘先生から中締めのご挨拶をいただき、1次会は閉会となりました。

2次会にはほとんどの同期生が参加し、中道博之君の司会で、下田学君の乾杯から藤木洋君の中締めまでボルテージは上昇。その後3次会にも多くの同期が流れ、夜の更けるまで旧交を温め合いました。（遠藤 勇人 記）

橋本五郎大先輩も参加

昭和55年卒東京同期会

卒業以来35年間、一度も同期会を開いていなかった我々が、2015年から毎年夏に東京で開催するようになりました。回を重ねて5回目となる今年は、7月6日午後3時から、芝パークホテルで開催しました。首都圏在住者がほとんどの中、函館から山岸（旧姓斉藤）順子さん、京都から瀬田川真さんなど遠距離組もちらほら。

会は「七夕特別講習」と題して、恩師の柴田義弘、船木賢咲両先生のお話で始まり、母校の近況などを伺うことができました。ホテル内のバーで行われた2次会には、読売新聞東京本社特別編集委員の橋本五郎大先輩も参加。

3次会の居酒屋には橋本先輩もそのままおいでいただき、4次会はカラオケ。みんな還暦前とは思えぬ元気さで、来年の再会を誓いました。（賀内 隆弘 記）

卒業写真上映で懐かしむ

昭和49年卒同期会

8月11日、秋田キャッスルホテルに恩師の三船新次・小野寺清両先生を含め50人が集い、1年半ぶりの同期会が盛大に開催されました。

幹事を代表して山口武秀さんから、今後の開催時期の提案を含めた歓迎の挨拶。小林和世さんから「普通に生きること、普通であることは奇跡だと思う。今を精一杯大切に過ごしたい。今日の再会に感謝し、これからの人生が益々穏やかで豊かであるよう祈念したい」と、高らかに乾杯の発声。卒業アルバムから顔をアップで映し、当人から近況報告してもらいました。「何となく面影がある」「今の顔にそっくり（?）」との声も聞こえ、45年前の秋高生に戻ったように一気に歓談の輪が広がりました。恒例の荘司裕さんの校歌斉唱・エールで大いに盛り上がったところで、佐藤光二さんの音頭で中締め。ほとんどがホテルの2次会場でさらに旧交を温め、次回の再会を誓って散会しました。次回同期会は2年後（2021年）のお盆に開催することにしました。（佐藤 悦紹 記）

3年連続で同期会開催

昭和54年卒同期会

8月17日午後6時から、51人が参加し秋田市のイヤタカで、3年連続で昭和54年卒業同期会を開催した。2年前に同期の齋藤正直君（専修大野球部監督）が同窓会記念講演会の講師を務めたことをきっかけに同期会を開いたが、その際の「毎年やりましょう」との声に応え今年も開催した。昨年は11月に開催した。

今年は数回の実行委員会を開き日程を検討し、無事に終えることができ安堵している。企画から当日の進行まで協力してくれた多くの同期に心から感謝している。来年は還暦を迎える節目の年、どのような形で行うのか、実行委員会をこれまで以上に重ねて準備を進めたい。早めに期日を決定して案内を出し、多くの同期が集えるものにしたい。（高橋 信一 記）

令和元年度
年会費納入のお願い

会員の皆さまには日頃から同窓会活動に深いご理解とご協力を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

さて、秋田高校同窓会の運営は、その財政基盤のほとんどを会員の皆さまの年会費に依存しております。円滑な同窓会活動を推進するため、令和元年度の年会費納入にご協力を賜りますようお願い申し上げます。同封の払込取扱用紙で郵便局またはコンビニで納入くださるようお願いいたします。

また財政委員会では現在、会費の口座自動振替を進めています。納入手続きの煩わしさを解消し、〝うっかり忘れ〟を防止するとともに経費節減を図るためです。

口座自動振替をご希望の会員は払込取扱用紙にある金融機関名（秋田銀行、北都銀行、ゆうちょ銀行）を選び、所定の欄にご記入のうえ同窓会事務局にお申し込みください。その際、今年度分の年会費はコンビニではなく、最寄りの郵便局からお振り込みいただくようお願い申し上げます。なお、諸般の事情により、みずほ銀行での口座自動振替の取扱いは中止いたしました。

年会費に関する取り決めは以下のとおりです。

1. 年会費は会員1人当たり2,000円とする。
2. 年会費の請求は単年度のみとし、過年度分は請求しない。
3. 母校卒業後4年間は年会費の納入を免除する。

（財政委員会）

哀悼

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

敬称は省略させていただきました

平成28年
- 2月 小原 伸司（昭32）
- 3月 伊従 成宣（昭23）

平成29年
- 12月 武井 典子（昭49）
- 1月 藤谷 正美（昭29）
- 2月 相沢 達（昭30）
- 2月 成田 睦（昭33）
- 3月 飛田 幸重（昭55）
- 5月 二宮 信孝（昭15）
- 6月 佐々木 満郎（昭22）
- 7月 永井 重翁（昭23）
- 佐々木 治夫（昭27）
- 渡邉 明（昭43）
- 9月 駒形 望（昭57）
- 照井 健（昭37）
- 10月 人見 亮（昭25）
- 11月 齋藤 充司（昭30定）
- 石井 邵（昭35）
- 加藤 士（昭36）
- 今野 孝（昭22）
- 畠山 昭紘（昭35）
- 佐々木 欣栄（昭33）
- 門間 敏秋（昭33）
- 12月 渡部 忠信（昭37）
- 高村 勉（昭23）
- 鮎川 義彦（昭39）
- 保谷 公彦（昭35）

平成31年
- 1月 武田 彰一（昭22）
- 渡部 恂（昭30）
- 花巻 房雄（昭31）
- 川辺 栄治（昭36定）
- 進藤 造一（昭27定）
- 佐藤 進（昭21）
- 2月 桜田 馨一（昭19）

平成28年
- 一戸 富士雄（昭26）
- 田沼 勝行（昭38）
- 川辺 暢夫（昭39）
- 阿部 功（昭35）
- 3月 佐藤 嶺夫（昭32）
- 戸島 均（昭29）
- 太田 房夫（昭31）
- 夏井 和夫（昭27）
- 酒出 弘二（昭33）
- 4月 笹村 健明（昭28）
- 石河 卓弥（昭23）
- 門間 久一郎（昭20⑤）
- 造酒 興一（昭36）
- 根津谷 禮藏（昭36）
- 菊地 嘉武（昭46）
- 木谷 勇一朗（昭28定）
- 伊勢 紀久（昭33）
- 山田 義和（昭46）
- 三浦 禮司（昭25）
- 佐藤 瑞夫（昭28）
- 長嶺 昭夫（昭19）
- 澤井 貢（昭45）
- 小池 一夫（昭30）

令和元年
- 5月 岩崎 弦（昭27）
- 小山 孝之助（昭29）
- 佐々木 睦男（昭39）
- 三浦 潔（昭48）
- 鎌田 雪男（昭31定）
- 松本林 太郎（昭27）
- 進藤 彰一（昭30）
- 相馬 守胤（昭22）
- 平澤 國男（昭39）
- 太田 芳弘（昭34）
- 杉渕 誠（昭58）
- 加賀谷 勉（昭54）
- 北川 豊彦（昭45）

平成29年
- 6月 緒方 健一（昭23）
- 金田 正樹（昭40）
- 柴田 康二郎（昭28）
- 中村 覚（昭56）
- 雑賀 光一（昭28）
- 齋藤 典男（昭23）
- 小野 博章（昭27）
- 吉田 敬（昭33）
- 本田 和則（昭23）
- 小柳 稔（昭40）
- 7月 中村 精（昭36）
- 根本 淑（昭28）
- 根本 寿雄（昭13）
- 田口 強三（昭33）
- 藤山 康彦（昭59）
- 久米 幸子（昭61）
- 堀 祐次（昭30）
- 小棚木 昭夫（昭20④）
- 嵯峨 正男（昭17）
- 星野 金造（昭19）
- 8月 川口 史朗（昭28）
- 菊谷 重行（昭22）
- 佐藤 安二郎（昭18）
- 榎 芳輝（昭34）
- 黒澤 忠夫（昭38）
- 明珍 順子（昭63）
- 泉谷 雅清（昭36）
- 梅津 忠悦（昭17）
- 伊藤 四郎（昭20⑤）
- 阿部 伸夫（昭26）
- 菅原 隆三郎（昭35）
- 岡崎 金二郎（昭22）
- 9月 川村 元（昭34定）
- 石田 哲治（昭15）
- 小玉 得太郎（昭18）
- 佐藤 和夫（昭40）

注（昭20④）は旧制中学を4年で卒業、（昭20⑤）は5年で卒業したことを表す

アネスティ法律事務所
Honesty Lawoffice
仙台弁護士会所属
弁護士 須田 晶子（平成5年卒）
弁護士 勝田 亮
弁護士 森 健次
仙台市青葉区本町1丁目9-5 五城ビル5階
TEL 022-714-6153 ／ FAX 022-714-6154
URL http://honesty-lawoffice.com/

おかげさまで
オール『純米』『県産米』『大号酵母』
新政
新政酒造株式会社
代表取締役社長 佐藤 祐輔（平成5卒）
〒010-0921 秋田市大町六丁目2-35
TEL 018-823-6407
www.aramasa.jp

焼肉 大同門 南大門
代表取締役社長 佐々木 貴徳（平成5年卒）
焼肉 南大門 秋田店
秋田市寺内字三千刈250-1 tel.018-865-0325
http://www.daidoumon.jp

令和元年度 秋田高等学校 海外研修
～北雄の翼2019～

ハーバード大学にて

フェンウェイパークにて

昨年度28人の参加でスタートしたアメリカ海外研修「北雄の翼」が今年も、同窓会のご支援をいただき、43人の生徒が参加して、ボストン・タフツ大学等で実施されました。タフツ大学は秋高の卒業生である、明石康氏（昭和22卒・元国連事務次長等を歴任）が学んだフレッチャースクールがあることでも有名な全米でも有数の大学です。研修の様子を、参加生徒の感想と写真でご報告します。

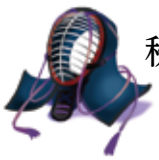
日程表			活動場所
7/14(日)		秋田発 → 羽田空港 → 成田空港 → ボストン・タフツ大学	
7/15(月)	午前	クラス分けテスト、オリエンテーション、大学内散策	タフツ大学
	午後	MIT訪問、ハーバード大学訪問、ともに日本人在学生による説明・案内	ボストン市内
	夜	留学生との自主交流プログラム	タフツ大学
7/16(火)	午前	英語クラス	タフツ大学
	午後	CIC（ケンブリッジ・イノベーション・センター）訪問	ボストン市内
	夜	留学生との自主交流プログラム（フェン・ウェイパークでレッドソックス戦観戦、寮での交流の2班）	ボストン市内他
7/17(水)	午前	英語クラス	タフツ大学
	午後	現地で活躍する日本人、松川原氏（マーケティング会社経営者）の講演	タフツ大学
	夜	留学生との自主交流プログラム（ボストン美術館見学）	ボストン市内
7/18(木)	午前	フリーダムトレイル（アメリカ建国の史跡巡り）	ボストン市内
	午後	英語クラス	タフツ大学
	夜	フレッチャースクールの日本人学生（官僚候補、社会人）との懇談	フレッチャースクール
7/19(金)	午前	ケリアン・パノス氏（8カ国語を操る、異文化コミュニケーター）の講演	タフツ大学
	午後	英語クラス、修了式	タフツ大学
	夜	留学生との自主交流プログラム（フェアウェルパーティ）	タフツ大学
7/20(土)	一日	ボストン市内班別自主研修	ボストン市内
	夜	留学生との自主交流プログラム	タフツ大学
7/21(日)	午前	ボストン → ニューヨーク	
	午後	メトロポリタン美術館、グラウンドゼロ、国連本部ビル、グランドセントラル駅など見学	NYC
	夜	ニューヨークで活躍中の日本人との懇談（秋高OB1人含む）	NYC
7/22(月)	午前	ニューヨーク発	
7/23(火)	午後	成田空港 → 羽田空港 → 秋田	

伝える力

2G 軽部 眞由

アメリカに行き、私の中で何かが変わった。きっかけはカフェテリアでのこと。滅多にない機会だと思い、思い切って近くにいた中国人4人の女の子たちに話しかけた。彼女たちは、私の2歳年下だが、明らかに英語のスキルが高かった。圧倒されながらも、話していくうちに、中国の文化や彼女たちが日本に興味を持っているということが分かり、話が弾んだ。いつの間にか普通の友達のように仲良くなった。彼女たちと話す度に私にとってよい刺激となり、モチベーションの向上へとつながった。同時に相手がたとえ外国人でも、自分の考えを一生懸命伝えれば、心も通じ合えることが分かった。一番大切なことは、英語が話せることではなく、自分の考えを積極的に伝えようとすることだと、この研修を通して学んだ。

カフェテリアで。さまざまな国の方と交流しました


秋高剣友会

洗車と磨き、コーティングの専門店
「美しいクルマと共に暮らす。」
BEAUTIFUL CARS
www.beautifulcars.biz
株式会社ホワイトシード
代表取締役
村上 篤（平成5年卒）
〒010-0041
秋田県秋田市広面字土手下13-4
Tel：018-874-9486
E-mail：info@beautifulcars.biz

株式会社 ヨロズヤ
代表取締役
堀川 誠（平成元年卒）
取締役
堀川真美子（旧姓 水品）（平成5年卒）
〒010-1653 秋田県秋田市豊岩小山字狐森325番
TEL. 018-888-8398
rentayoro@trad.ocn.ne.jp
《リース部》TEL. 018-888-8341
FAX. 018-888-8342

医療法人 秋田医仁会
消化器内科・内科・整形外科・脳神経外科・放射線科
瀬川医院
能代市万町7-23（バスステーション近く）
☎0185(54)3322・0185(52)1110
院長 瀬川大輔
脳神経外科・内科・整形外科・放射線科
秋田メモリアルクリニック
秋田市南通亀の町7-26☎018(836)6070
内科・胃腸科・整形外科・脳神経外科
八峰町ハタハタの町診療所
八峰町八森字中浜196-26☎0185(70)4550

国連ビル前にて

OBの齋藤康弘さん（昭和59卒）にはお忙しい中、今年もかけつけていただきました！

スキル

2A　佐藤 なな穂

さまざまな場面で「グローバル化」が叫ばれていますが、本当に危機感を持っている人はほんの一握りだと思われます。私自身もそうでした。しかし今回の研修で初めて焦りを覚えました。英語クラスの時間、私のクラスは日本人と中国人が半々くらいでしたが、まだ中学生なのに、中国人生徒の英語スキルの何と高いことか。仮にグローバルな視点を持つことができても、実際にスキルが無ければあまり意味がないかもしれません。確実に日本はどちらの点でも遅れているな、特にスキル面ではそれが顕著に表れているな、と強く感じました。これはアメリカに行ったからこそ分かることです。大変貴重な経験でした。

楽しむ

2A　佐々木 理音

今回、さまざまな立場の方からお話を伺ったが、どれにも共通点があったと思う。それは、「楽しむ」と「楽しむために努力する、仕事をする、挑戦する」ということだ。これは今までの自分に無かった考え方だった。以前はただ曖昧な理由で、海外に行ってみたい、海外で暮らしてみたい、と思っていた。その一方で、それだけでは行く意味がないし、それ以上の理由を見つけられない自分には行く資格はないのではと思っていた。しかし研修中に「それでもいい、そう思うのは絶対に理由があるからで、いつか見つかるから、なにか楽しそうだと思うものがあるのならそれを追うべきだ」という言葉を頂いて、目の前が開けた。自分には今目標がある。この研修に参加し、それが明確になった。得たこと、学んだこと、考えたことを自分のこれからの人生に活かしていきたい。

メトロポリタン美術館前で。
この日のNYCは37℃の猛暑でした…

パノス氏の講演。和やかな雰囲気の中で、コミュニケーションスキルを学びました

「新しい視点」に触れて

2G　梅津 興生

北雄の翼海外研修では、驚かされることの連続だった。中でも世の中の見方が大きく変わったのは、現地の日本人、松川原康市氏の講演である。最も心に残った言葉は、「短所は無理に直そうとしない。今あるカードでどうするか考えなさい」であった。これには驚愕した。松川原氏いわく、日本人は能力や社会的評価、すなわち「他人軸」で自分の価値を考える傾向がある。自分の欠点、無能さは否定的に捉えてしまうそうだ。そうではなく弱さすらも自己表現に活かすべきだ、とおっしゃっていた。今まで教えられてきた長所を伸ばし短所を改めるということと180度アドバイスが異なっていて、僕は自分の凝り固まっていた考えが少し柔らかくなるのを感じた。この貴重な講演をはじめ、北雄の翼で得た体験を秋田でも活かしたいと思った。

松川原氏の講演。みんな真剣に聴いています

BREAKTHROUGH PARTNER
司法書士事務所
代表司法書士 山田 晃史（平成15年卒）
簡裁訴訟代理等関係業務認定　第801180号
ブレイクスルーパートナー司法書士事務所
〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町1-2-14 日本ビルディング3号館3F
TEL：03-6661-2414　FAX：03-4586-9874
E-mail：a.yamada@break-through-p.com

大正七年創業　お肉とお惣菜のお店
MEAT&DELICA
FUKUSHIMA
有限会社 福島肉店
専務取締役 福島 智哉
（平成15年卒）

秋田高校同窓会だより vol.106
2019年11月20日
AKITA HIGH SCHOOL alumni association news

秋高NOW（ナウ）

つながり

剣道部

私たち剣道部は、インターハイに出場し上位入賞することを目標に、日々の稽古に励んでいます。

近年、秋高剣道部は部員が少ない傾向にあります。このような時だからこそ部員同士の相互交流を大切にし、良い点や改善点を指摘し合うことによりお互いを高め合っています。そしてこれらの交流が、試合において一人一人が自分のポジションを理解し、一勝一本を大事にして勝利を勝ち取る「つなぐ」剣道をすることにもつながっています。

また、秋高剣道部ではOBの先輩方との交流が盛んです。毎月行われるOB稽古会では先輩方と実際に剣を交えることによりご指導をいただき、学ぶ点がたくさんあります。このようなことができるのは全世代が行える剣道という競技、そして長い伝統がある秋高剣道部だからこそです。

伝統を受け継ぐ剣士たち

創部から百三十六年という長い歴史があり、秋高剣道部の卒業生である顧問の目黒先生をはじめ、多くの方々の支えがあるこの剣道部で活動ができることに感謝し、目標達成のためにチームメイト、そして多くの先輩方とのつながりを大事にして頑張っていきたいです。

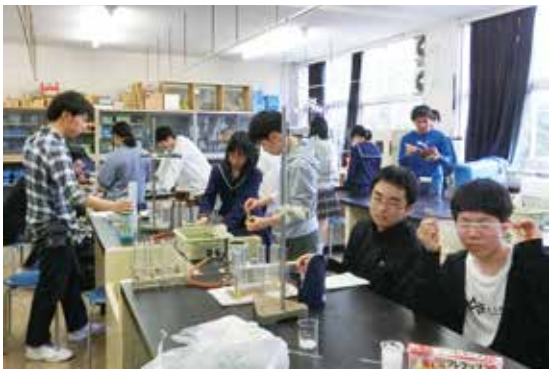
〔2年　児玉 駿斗〕

伝統と革新で王道を征く

化学部

化学部は現在24人。化学に関する実験をしたり、皆で集まって雑談したり、時に真面目に、時にゆるりと活動しています。

部としての行事は秋高祭がメインです。今年は1年生の入部が多く、とてもスムーズに準備を進めることができました。当日は、昨年より製作体験・販売をしていたUVレジンアクセサリーが非常に好評で、演示実験もたくさんの方に見に来ていただき、まさに大成功でした。


秋高祭に向け活気に満ちる化学実験室

さて、我々が今年新たに始めようとしているのは、じっくりと取り組む研究です。例年秋高祭や部誌編纂に向けて行っていた短期研究をさらにレベルアップして、次の世代にも引き継いでいけるような、身近で楽しく、そして深い研究テーマを決めていきたいと考えています。

代替わりして、部として引き継いでいくもの、新しく始めるもの等これからやることは盛りだくさんです。化学部のこれまでの伝統を築いてくださった先輩方に感謝し、「化学」というものの面白さ、奥深さを感じ、秋高の皆さんに広めていけるよう、部員一同努力していく所存です。

〔2年　吉田 康成〕

事務局通信

初秋の頃、うぐいす坂から眺める夕日は、なかなかの絶景でした。つるべ落としの夕日かなという風情がありました。

さて、企画委員会では教育振興基金の充実を図るため、今年も同窓会グッズを作製いたしました。クリアファイル、マフラータオルに加えて、消せるボールペン（秋高のロゴ入り黒・青・赤の3色セット）です。同期会、支部総会の記念品として、これらグッズをぜひ、ご活用ください。（柏）

編集後記

昭和46年9月、兄から借りただぶだぶの背広を着て登校した。正門前では先生が1人ずつチェック。「君は何年何組の誰だ」。着装自由化の試行初日の光景だ▼「あの頃の思い出5」は着装自由化を取り上げた。当時の生徒会長に原稿を依頼しながら、冒頭の出来事を思い出したのである。甲論乙駁、長時間の生徒総会の情景も。学んだものは、とてつもなく大きかった。（風来坊）

発行者／秋田県立秋田高等学校同窓会　秋田市手形字中台1番地
電話 018－832－9553　FAX 018－832－9588
印　刷／秋田協同印刷株式会社